

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第8週 (2/22-2/28) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		8週	7週	6週	5週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	注 意 報	千 葉 市				千 葉 県
			2/22-2/28	2/15-2/21	2/8-2/14	2/1-2/7	2/15-2/21
			8週	7週	6週	5週	7週
小 児 科	RSウイルス感染症		1 0.06	1 0.06	2 0.11	6 0.33	23 0.17
	咽頭結膜熱		2 0.11	9 0.50	1 0.06	1 0.06	36 0.27
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	59 3.28	54 3.00	38 2.11	68 3.78	513 3.80
	感染性胃腸炎		101 5.61	110 6.11	101 5.61	126 7.00	817 6.05
	水痘		16 0.89	7 0.39	5 0.28	7 0.39	64 0.47
	手足口病		0 0.00	1 0.06	2 0.11	0 0.00	3 0.02
	伝染性紅斑		2 0.11	3 0.17	6 0.33	7 0.39	44 0.33
	突発性発しん		8 0.44	15 0.83	8 0.44	7 0.39	62 0.46
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.02
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性耳下腺炎		5 0.28	12 0.67	4 0.22	8 0.44	174 1.29
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	↓★★	962 34.36	1,100 39.29	1,224 43.71	1,294 46.21	8,426 39.37
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎	○	3 0.60	4 0.80	3 0.60	6 1.20	21 0.64
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 3.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(13件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	病原体の検出	劇症型溶血性	男性	60歳代	病原体の検出
結核	男性	40歳代	IGRA検査	レンサ球菌感染症	女性	60歳代	病原体の検出
結核	男性	80歳代	病原体等の検出等	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	30歳代	病原体の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査		男性	70歳代	病原体の検出
結核	女性	40歳代	IGRA検査等		女性	40歳代	病原体の検出
結核	女性	50歳代	IGRA検査		女性	60歳代	病原体の検出
-	-	-	-	梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出

・第8週は、結核6件(34)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2件(4)、侵襲性肺炎球菌感染症4件(9)、梅毒1件(2)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第8週のコメント

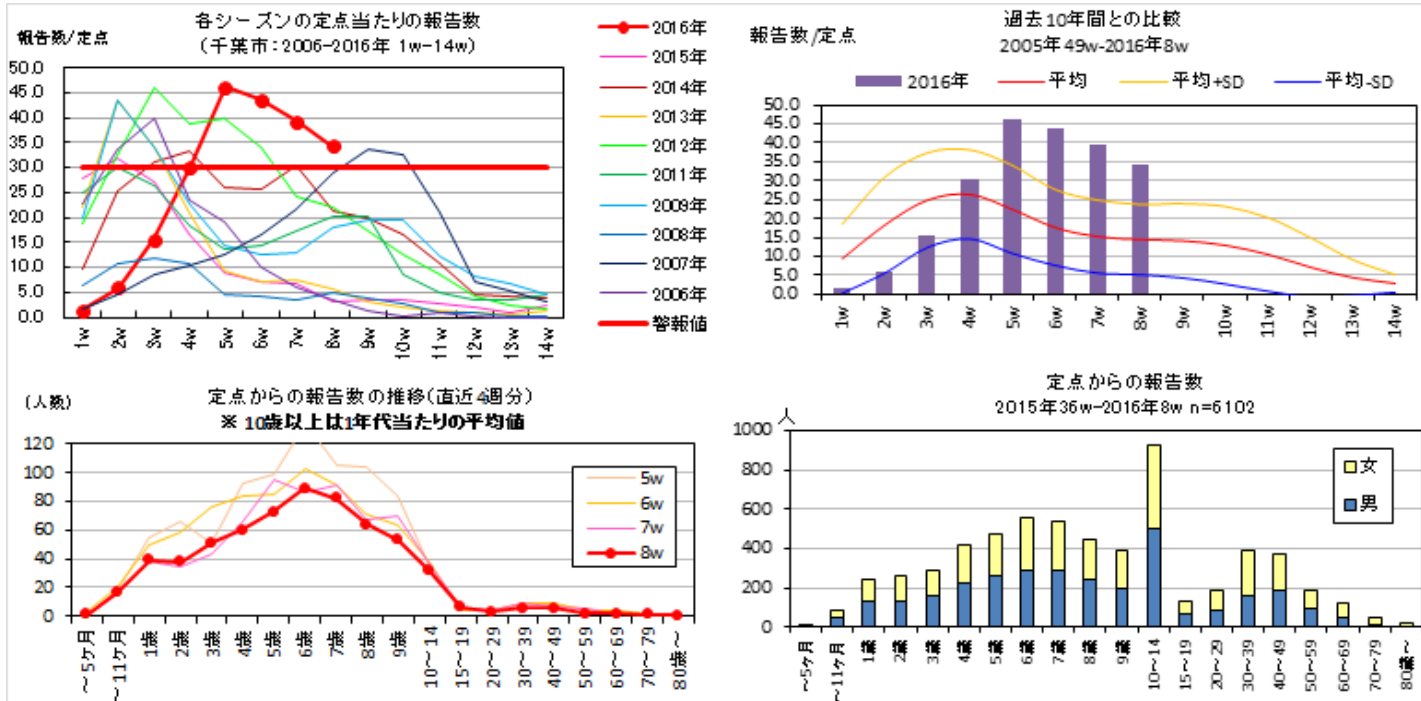
＜インフルエンザ＞前週より減少し34.36となった。流行発生警報開始基準値を上回ったまま。過去10年の同時期と比べると最多。

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し3.28となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め。

■ トピック ■

<インフルエンザ>

全国レベルの第7週は、流行発生警報開始基準値(30.0/定点)を上回ったままで、過去9年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、愛知県、広島県、石川県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の2016年第8週は前週より更に減少し34.36となりましたが、依然として流行発生警報開始基準値は上回ったままです。過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、中央区(42.3/定点)で最多で同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは7歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第8週までの累積報告数(n=6102)によると、性別では男性が51.4%(3136名)、女性が48.6%(2966名)で、年齢階級別では6歳(9.18%:560名)、7歳(8.78%:536名)、5歳(7.70%:469名)の順に多くなっており、20歳未満は全体の78.2%、10歳未満は全体の60.8%となっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルは年頭から過去9年の同時期と比べて最多の状態に推移しており、第7週も同様となっています。都道府県別では、鳥取県、山形県、宮城県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の2016年第8週は前週より増加し3.28となり、過去10年の同時期と比べてやや多めとなっています。区別の発生状況は、緑区(6.0/定点)で最多で同区の5歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第8週までの累積報告数(n=999)によると、性別では男性が55.8%(557名)、女性が44.2%(442名)で、年齢階級別では5歳(15.7%:157名)、7歳(12.7%:127名)、6歳(12.4%:124名)の順に多くなっています。

